



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2010

11月25日号

123
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024(559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

愛するもののために



副会長 遊 佐 烈

私事で申し訳ないが、今年の4月、横浜での総合学術大会に妻を同伴させ、私が学会参加中に妻は一人鎌倉を訪れ旅を楽しんだようです。しかし5月に入り、腰痛を主訴とし病が見つかり抗がん剤治療による闘病生活が始まりました。一時良い方向に向かい、もしかしたら奇跡もあり得るかなとも思いつつ、9月のリレーフォーライフでは夕方のルミナリエの時間に妻と別な団体で参加していた娘と3人で医大のグラウンドを1周だけ歩く事が出来ました。この時間が永遠に続いて欲しいと神にも祈りましたが、その願いは叶わず10月16日の夜、私と娘の見守る中、静かに54歳の生涯を閉じました。発見から僅か5ヶ月であり、心の整理は未だに出来ていません。

我々が従事する医療の進歩は目覚ましく、CTにおいては被ばく線量低減を行っても、逐次近似法により今までと同程度の画像の質を担保出来たり、3Tという高磁場のMRI装置も色々な施設に導入されるようになり、非造影MRIが考えられ造影剤無しでも、より詳細な画像を提供出来るようになった。更に治療の分野においても正常組織の被ばくを減らし、目標とするターゲットに高線量を集中して照射する技術が確立され、昔であれば死の淵にいた方も現在では普通の生活を楽しむ事が出来る時代になってきている。その一端を担うのは医師と共に我々放射線技師・看護師等の医療従事者の協力によるものである。昔、私が放射線技師になったばかりの時に先輩から、「スイッチマンにはなるな！何の為にどうすれば良い写真が撮れるか考える。医師に多くの情報を提供出来る技師になれ！」と言われた事を思い出す。その当時からすれば機器の進歩は著しく、新しい理論に基づく装置が続々発表されて来る。こちらも新しい情報を常に仕入れようとする努力をしなければ、あっという間に単なるスイッチマンに成り下がってしまう。いかに自分のモチベーションを高める事が出来るか、学会活動や勉強会に出席して新しい知識を吸収し理解する事で、目的と信念を持ってスイッチを押す事が出来る放射線技師になれるのだと思う。

福島県放射線技師会では色々な勉強会や講演会を行っている。10月31日に行われた福島県放射線技師学術大会には過去最高の39演題ものエントリーがあった。雨の降る寒い日で医大病院の講堂は暖房も入らない状態であったが、そこに参加するだけでも自分に不足している知識・やる気を奮い立たせる事が出来る。多くの仲間が集い、色々な知識を吸収して明日からの仕事に生かしてくれる。土曜や日曜日に勉強会が行われる事が多く、自分の生活を大切にしたいと思われる方も多いと思う。しかし、新しい知識や研究により更なる医療の進歩が進み、愛する家族や子供の命を助けられる事に繋がるとしたら貴方ならどちらを選択しますか？一人一人がもう一度、放射線技師になった時の初心を思い出してみましょ。愛する人が1日でも長く生きられるように手助け出来るのも我々放射線技師や医療従事者の特権なのでありますから。

第2回理事会議事録（抄）

日 時：平成22年10月22日(金)14時00分～

場 所：県立医大病院放射線部カンファランス室

出席者：(会長) 鈴木憲二、(副会長) 齋藤康雄、(理事) 白川義廣、佐藤政春、佐藤靖芳、嶋田峻二、今野英麻呂、佐藤勝美、栗田裕治、渡部和夫、山田隆弘、菅野和之、新里昌一、堀江常満、(監事) 片倉俊彦、(事務局) 伊藤陸郎、阿部郁明
議長に齋藤副会長、議事録作成人に浜通り支部（嶋田）を選び議事に入る。

議題1 平成22年度事業進捗状況報告

支部活動報告

4支部より現在までの活動報告とこれからの取組について報告があった。

生涯教育委員会

生涯教育にかかわる会員カードやポイントのカウントについての現状運用報告と問題提起がなされた。イベント登録に関するポイント取得のため流れと役割について「当研究会は、(社)福島県放射線技師会および(社)日本放射線技師会の生涯教育対照イベントです。技師会カードを忘れずお持ちください」等の案内文記載により周知徹底の要請依頼があった。また、(社)福島県放射線技師会は会員の会費で運用されているので当研修会主催・共催のイベントに非会員と格差を設け会員より1000円増額し徴収することに決定した。

ネットワーク委員会

技師会ホームページがホームページで取扱うデータ、及びネットワークに関する項目について統一化を図り今後のホームページの円滑な運用設定を目的に取扱マニュアル（案）が提案され承認された。

調査委員会

法的裏付けのない放射線技師の定数はどの様に決められるのかを知ることを目的にアンケート調査を実施した。その結果を学術大会で職場環境実態と技師定数決定因子の重視度の2部構成で発表する報告があった。

学術委員会

10月31日平成22年度県学術大会開催に向けて進行状況の報告がなされた。今年度の発表演題数が39題と多くの応募があったことと開催に向けた取組や役割分担、流れなどの現状報告があった。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2010イン福島大会

平成22年9月4日～5日 福島県立医科大学陸上競技場でリレー・フォー・ライフ・ジャパン2010イン福島大会が開催され会員26名が参加。県立医科大学病院技師が大半で無事終了の報告があり承認された。取組大変御苦労さまでした。

(社)福島県放射線技師会活動報告

(H.22.10.22現在)の報告がなされ、活動報告の記載漏れや誤りの有無の確認を行った。

福島県放射線技師会 予算執行状況

平成22年10月21日現在の会費納入状況の報告は全体で69%の納入率であった。前年度平成21年度未納者も合わせ県及び支部が協力し納入促進に取り組むこと。

議題2 平成22年度福島県生活習慣病検診従事者指導講習会 福島マンモグラフィ技術講習会

平成22年9月11日～12日福島県立医科大学病院講義室及び放射線部で開催された福島マンモグラフィ技術講習会は、39名が参加。A7名、B12名、が認定された報告と収支報告がなされ承認された。

議題3 日本放射線技師会臨時総会について

平成22年11月13日東京都千代田区の科学技術館で開催される第69回日本放射線技師会臨時総会代議員は、齋藤康雄、遊佐烈、今野広一、白川義廣 各氏。選挙管理委員に佐藤政春氏を選出決定し臨時総会に臨むこととした。

「平成22年度 福島マンモグラフィ技術講習会」開催される

残暑がまだ厳しい9月11、12日の両日、平成22年度福島県生活習慣病検診従事者指導講習会「福島マンモグラフィ技術講習会」が福島県立医科大学附属病院にて行われました。参加者は一般受講生35名、更新受講生4名の計39名でした。2日間にわたり、マンモグラフィの基礎、臨床と病理、読影の基礎、品質管理、ポジショニングなど多岐にわたる講義、実習を受けました。講習会前の自己評価では初級という方が多かったようですが、熱心な受講生が多く、A評価、B評価合わせて19名の合格となりました。読影、筆記試験終了後には鈴木会長より修了証書の授与があり、受講生への労いと今後の活躍を期待するお話がありました。受講生の皆様及び、講習会に携わって頂いたスタッフの皆様、講師の皆様、大変ご苦労様でした。
(共立病院 村上)



支部だより

会津支部

「第33回 会津MRI研究会」開催される

平成22年10月8日(金)に山鹿クリニックにおきまして、第33回会津MRI研究会が開催されました。

まず共催メーカーさんより「MRI造影剤の安全性 (NSF) について」という内容で情報提供をいただきました。ご存じのように1997年に最初の症例報告があってから今日まで、いくつもの症例が次々にあげられています。それにともなってリスク分類やガイドラインなどの作成により、適応や使用量についても基準ができつつあり、放射線技師としてもこれらの啓蒙を行っていただければとのことでした。



また、竹田総合病院さんからは「FLAIRについて」ということで、FLAIRの基本原則から始まって、最適なTI値を求めたグラフを用いて、よりよいFLAIR画像を出すための説明していただきました。また、会津中央病院のFLAIR画像を見ながらフィルムカンファレンスを行い、各施設でどのような画像を出しているのか或いはどう出していけばよいのかなど、様々に思っていることを意見交換して過ごすことが出来ました。(森谷)

県北支部

「福島県画像研究会発表勉強会」開催される

平成22年9月18日(土)14時より「福島県画像研究会発表勉強会」が福島テルサにおいて開催された。福島医大放射線部の遊佐烈技師長を座長・アドバイザーとし、今回は3施設からの演題発表があった。発表後には、まとめ方のポイントや発表の仕方など多くのアドバイスがありこの機会を通し学会発表への意識が高まっていたようであった。終了後には懇親会が行われ和やかな雰囲気の中、各施設との情報交換などが行われていた。

【演題発表】

演題1 「仮想スリット法を用いたNPS測定について」

福島県立医科大学病院 石川 寛延さん

演題2 「検査時における患者さんとのコミュニケーションのとり方」

公立藤田総合病院 大杉真理子さん

演題3 「当院における3 DLG」

大原総合病院 和田かおりさん
(池田)

「健康フェスタ2010」に参加

去る9月25日(土)福島市保健福祉センターにおいて福島市主催の「健康フェスタ2010」が開催された。「食からはじまる健康づくり！みんなで広げよう食育の輪！」をテーマに24の福祉団体が参加し大変賑やかな催しとなった。県北技師会は「最先端医療画像への取り組み」とのテーマで、特にマンモグラフィーについて重点を置いた展示を行った。女性の関心の高いテーマであったため、幅広い世代の方々に来場していただき大変盛況であった。来場者は、触診マンモファントムに実際に触れてみたり、マンモグラフィー装置での圧迫圧体験や実際の写真を見たりと、病気や検査に対する知識を深めていたようであった。



今回はマンモ撮影にかかわる女性技師5名のご協力も頂きながら、健康について広く市民の皆様へ啓発・推進をすることができたようでした。(池田)

「第10回県北MDCTカンファレンス」開催

平成22年10月2日(土)15時より「第10回県北MDCTカンファレンス」が杉妻会館において開催された。はじめに「新しいMDCTの紹介」としてGE64列について北福島医療センターの小池沙織さんが、フィリップス64列について公立藤田総合病院の浅野佳寿雄さんがそれぞれ装置の特徴を紹介した。また大原総合病院の和田かおりさんが、共同実験企画・腹部CT検査における「ノイズ特性」について発表を行い、次に「各施設のSD、低コントラスト測定の比較」と題し大原総合病院の橋本浩二さんが県北7施設のデータをもとに比較検討した結果を発表した。

教育講演では「肝ダイナミックCTとTDC、造影剤の選択」と題して、エーザイ株式会社の冬頭孝一先生よりMDCTにおける至適造影法について講演していただいた。

次に大原総合病院放射線科部長の緑川重夫先生より「救急におけるCTの役割」と題し、臨床画像と共に詳しく説明していただいた。今回も多くの参加者があり各病院の熱心な技術向上の姿勢が伺える勉強会となっていた。

(池田)

県南支部

「保健・福祉フェスティバル郡山」開催される

10月3日の日曜日、清々しい秋晴れの中、保健・福祉フェスティバル郡山「ファミリーフェスタ2010」が郡山総合体育館において開催され、県南支部として例年どおり出展しました。

テーマを『あなたの身体を守る放射線検査』とし、放射線検査や内臓脂肪の計測方法などについて説明をしました。技師会からは支部長をはじめ役員を中心に5名の方に参加していただきました。また体験コーナーとして、



骨密度測定を実施し、2台の装置を設置したこともあり120名あまりの方に体験して

いただきました。

小さい子供からご高齢の方まで幅広く参加するイベントなので、質問の内容も様々でしたが、貴重な体験であったと思います。(菅野)

「ピンクリボンin郡山」へ参加

10月16、17日、郡山市ピックアイにおいて、乳ガン検診啓蒙運動ピンクリボンin郡山が開催されました。県南技師会として、乳ガン検診施設案内やマンモグラフィー検診バスの案内での参加をしてきました。市民の関心が高く、



用意したPR用のポケットティッシュはあっという間になりました。マンモグラフィー

についてのアンケートも行って、ただいま集計中です。

(本間)

浜通支部

「第11回いわき地区画像研究会」開催される

平成22年10月23日(土)午後3時よりクレールコート(旧内郷館)において、第11回いわき地区画像研究会が開催された。

今回はCT造影理論が主なテーマである。最初に第一三共株式会社成谷光造様より「造影CTにおけるオムニパークシリンジの有用性について」と題し学術情報の提供があった。



続いて長野赤十字病院 放射線科 八町淳先生より「CT造影理論による造影法」という演題で講演があった。八町先生といえば造影理論の第一人者であり、編集に携わった書「CT造影理論」ではTDC (time-density curve) 総論と造影剤注入法総論について執筆を行っている。講演はそのTDCの解説から始まり、体重と造影剤量、注入レートの関係について解り易く説明があった。最近、診療報酬改定によりCTの機種更新を行った施設も多いのではないかとと思うが、八町先生の考えでは最初は今まで行ってきた造影法で撮影を行い、徐々に新機種に合った造影法に変更した方が良いとのアドバイスもあった。講演終盤には先生がお話をされている中でどんな体重の患者様でも同じ造影効果の画像を提供できることが一番重要であるとの「造影理論」に対する熱意を感じる話もされていました。

会場からは八町先生が作られたファントームについて質問がありご自分だけで作成され、近隣のホームセンターで売られている材料だけで作られたとの説明があった。また、作成したファントームは先生がこうであれば良いと思っていたファントームですかとの質問もあり動脈相においては満足を得られる結果であったが、門脈相・平衡相においては満足されておらず、できれば精巧な肝臓のファントームを作りたいとのお話もされていました。

(鈴木)

編集後記

福島県技師会ニュース10月号の発行が遅れましたことをお詫びいたします。私、編集責任者こと浜支部今野は、いつものように精米するため米袋を持ち上げ背中がプツンと感じた瞬間左下肢に激痛が走り椎間板ヘルニアによる治療を受けて回復したと思っていた数週間後、手を洗おうとした瞬間、前回よりさらに激しい痛みが走り翌日緊急入院となり数週間安静治療の羽目になってしまいました。皆さんもこのような事がないようご注意ください。(今野)